

学校説明会

初等部

2020年 6月13日(土)  
8月 1日(土)  
10月17日(土)  
受付 9:30  
説明会 10:00-13:00  
場所 神戸校

中高等部

2020年 7月18日(土)  
9月26日(土)  
11月21日(土)  
場所 神戸校

見学・体験会

初等部

2020年 6月17日(水)  
6月24日(水)  
7月 1日(水)  
9月30日(水)  
受付 9:15  
オリエンテーション 9:30-10:00  
見学・体験 10:00-11:20  
場所 神戸校

中高等部

2020年 7月 2日(木)  
10月 1日(木)  
場所 神戸校

関西国際学園 スポンサー企業一覧

株式会社  
廣田康之事務所

豊かなコミュニティづくり  
MORIS

WM Well Holdings  
株式会社 ウェルホールディングス

f @KIAINJAPAN



t @KIAINJAPAN



i @KIASCHOOL



入学(編入)に関してのご相談は、お気軽にお問合せください。

関西国際学園 初等部・中等部・高等部 TEL.078-882-6680

Vol.  
009

BUNBU

関西国際学園 教育白書

Kansai International Academy  
Education white paper



学校法人角川ドワンゴ学園  
特集 鼎談 N高等学校

中村久美子学園長 N高等学校 理事就任特集

Vol.02  
学校法人角川ドワンゴ学園 理事  
株式会社ドワンゴ代表取締役社長  
夏野 剛氏

Vol.01  
学校法人角川ドワンゴ学園 理事長  
山中 伸一氏

特集  
鼎談

Vol.01

山中 伸一氏

×

茂木 健一郎氏

×

中村 久美子

## 新しい時代に合った教育 学びのカタチを考える

「山中 伸一 Shinichi Yamanaka

1954年生まれ。

東京大学法学部卒業後、文部省(現・文部科学省)に入省。内閣審議官(教育再生会議担当室副室長)、スポーツ・青少年局長、文部科学事務次官を歴任。退官後、外務省駐ブルガリア特命全権大使を務め、2018年6月20日 学校法人 角川ドワンゴ学園理事長 就任。

3年前に通信制高校として誕生したN高等学校。

新しい時代に合ったネットの高校として、注目を集めています。

2019年4月には「常識を超えて、未来を創る。」をスローガンにした

N中等部が開設され、同じ年に、学園長 中村久美子とその理事に就任。

その理事就任を記念して、N高等学校理事長の山中伸一氏をお招きし、

関西国際学園 顧問の茂木健一郎氏を交えて

これからの教育について語り合いました。

## 全国一斉に同じ教育をする時代は 終わったと感じています。

山中:角川ドワンゴ学園はN高等学校(以下N高)という通信制のインターネット高校を運営しています。既存の学校教育に馴染めない、満足できない生徒が増えていますが、既存の学校ではないところで何かできるのではと3年前にスタートし、生徒数が約1万1000人です。

中村先生はかなり以前から、既存の枠では収まらない学校運営をされていますね。

中村:株式会社で学校を経営しています。今、不登校児が多いですね。面白くないから学校に行きたくないという生徒もいます。設立当時からN高には注目していましたが、2019年4月にはN中等部も開設されました。理事にというお話をいただいたときに、何かお手伝いできることがあると引き受けました。

山中:N中等部は位置づけとしてはフリースクールです。色々な理由で中学校に行けないけれど勉強したい子どもたちの受け皿をつくるのが目的でした。N高の保護者から、N高のようところが中学時代にもあればよかった、自由に学べるスタイルの学校が欲しかったという要望もありました。

茂木:中学進学の前くらいから外れてしまう子どもも多いので、N中等部を始められたのは素晴らしいと思います。ところで、山中理事長は文部科学省(以下文科省)におられたそうですね。

山中:はい、さまざまな局で仕事をしてきました。

茂木:最終的に事務次官になられて、学校教育を標準化して全国津々浦々まで行き渡らせる仕事をされたそうですね。

今、N高で教育の多様化、先端的な学びに関わっていらっしゃると思いますが、標準的な教育と両方されて、いかがですか？

山中:文科省時代は、県や市町村、学校に合わせた教育を進め、各地域で自由にできる弾力化にも取り組みました。一方で、教育の質を担保するために、学力調査を導入して、信頼される教育システムづくりを進めてきたつもりではあります。ただ、今は全国一斉に同じ教育をする時代は終わったと感じています。

茂木:関西国際学園に通う児童・生徒の保護者を見てると新しい教育のあり方に魅力を感じて我が子を通わせたいという思いがある一方で、

文科省のカリキュラムや指導要領に安心感を覚えています。文科省的なスタンダード教育と先端的な教育のバランスをどう取るかという点で、皆さん悩んでおられます。

山中:スタンダードな教育内容を固めて、ここさえ勉強していれば大丈夫だというのが学習指導要領です。1980年代までは精選しながら教育内容中心の教育を取り込んでいきました。ところが、グローバル化や情報化が進み、学校で学んだだけの知識では人生を生き延びていけなくなりました。

1980年代の半ば頃から「教育を変えないと、自分で考えられる教育にしないと」と教育改革を進めたのですが、30年経ってもまだまだですね。

茂木:関西国際学園はどうですか。

中村:2001年に学校を作りました。幼稚園は義務教育ではないから、折り込みチラシで集客しました。その後、小学校をつくった時に、同じように折り込みチラシを入れたら教育委員会の人が来られて、「法律違反だと分かっていますか？小学校の卒業資格がないと保護者に話しておられますか？」と言われました。「きちんと伝えていきます」と言うと、「保護者の方は学力を気にされていないのですか？」と。「1年生でもできる子には2・3年生の教育をするので学力は心配ありません」と言うと、「それは平等じゃない」と押し問答になり、「フリースクールですから関係ないです」と答えましたが…、その教育委員会が、私に「講演会をしに来てください」と依頼されるようになりました。20年経って教育は変わってきたなと実感しています。



## なかなか進まないエリート教育。 16歳でも17歳でも大学入学を認めれば良い！

茂木:日本を考えた時にエリート教育がすごく大事だと思っています。アメリカなど外国では特別な子は社会全体に貢献するから後押ししようというような社会的合意がありますが、日本では難しいですね。

山中:確かに非常に難しい。文科省が決めても勝手にやるわけにはいかず、合意を取りながら進めなければなりません。20年程前に17歳で大学に入学できる制度をつくりました。当時、「他の子はみんな18歳なのに17歳で大学に入ったら人生経験が足りないのではないか」「特別に入学させた子は特別に扱え」など、面倒なことになりました。東大や京大に、16歳でも17歳でもどんどん入学してもらえばいい。それを認めればいいのに大学が譲らないことが信じられませんでした。例えば数学がすごいなら17歳でも東大入学を認めればいいでしょう？なのに大学がそれをやらない。

なぜでしょう？

中村:関西国際学園の子どもたちは英語をずっと学んできて、留学もして、いろんなことを体験していますが、最後に大学入試が立ちはだかります。

山中:日本は、大学進学者が5割を超える社会になっていますからね。

茂木:明治時代は、文部省が指導して夏目漱石に英国留学を命じました。国が指導してエリート教育をしてきた気がします。文科省が10歳でも大学へ行っていると言えば大学もそれに合わせるでしょうが、文科省は個々のプレーヤーが提案するのを待っているのかも知れない。一方、個々のプレーヤーは文科省に音頭を取ってほしいと思っている気がしますね。

山中:浪人すれば19歳や20歳になる。遅れるのはいいけど、前倒しはダメだというのは理屈に合わない、すごくおかしいと思って17歳で試しましたが、大学が乗ってきませんでした。

## N高に来る生徒は、目標に向かういちばんいい ルートを考え今やることを決めています。

茂木:ゆとり教育を進めるときに、教育現場では先生が総合的学習の時間を指導しきれませんでした。教える側の資質の向上・養成というのが課題ですね。

山中:ゆとり教育では「総合的学習の時間」という子どもたちに考えさせる時間をつくりました。「どの様なテーマが良いでしょうか」と聞かれて、情報や国際教育などの例を出しました。それだけでは指導できないということで、さらにモデル授業集まで出したのですが！

中村:先生たちは「何をやってもいい」ということが一番困るようです。

山中:先生自体が自分で考えて目標をつくることに慣れていないですね。教科書にあることを教えておけば成績も上がるし、大学入試は塾や予備校に任せるシステムになってしまっています。

中村:関西国際学園では国際バカロレアを取得しましたが、山中先生が国際バカロレアの日本語

コースを提唱されたそうですね。

山中:当時日本ではIB校は10数校でしたが、200校つくるとぶち上げました。そうすると、国際バカロレアの協会が「日本語でコースをつくれますよ」と提案してこられました。認可を得たおかげもあり、今では、候補校等まで含めると150校近くになりました。

茂木:インターナショナルスクールや国際バカロレア校に通わせている保護者と話をすると、「我が子に今の時代にベストな教育を受けさせるにはどうすれば良いのか選択肢が多くて分からない」と言われます。関西国際学園でもリアルな問題になっているのではないですか。

中村:進学先として当学園(関西国際学園)を選んでいます。確かに保護者は我が子の教育をどうすれば良いのか悩んでおられますね。「国際バカロレアで大学に行けるのか」と。

山中:私は少し勉強ができたから東大へ行こう、文系



だと法学部がいいと文Iを受ただけで、目的も目標もありませんでした。それでも良かったのが1960～1970年代です。今や将来何をしたいかを若いときから考えなくてはならない。

目標に向かういちばんいいルートを考え、今やるべきことに取り組まなければならない。日本の大学と海外の大学と、どちらが得かと考えるとアメリカの大学がいい。それなら英語力が必要だというように…。

茂木:一部では大学不要論もありますが、多くの家庭ではいい大学に入れたいという考えがありますね。それに今の学生さんは大学1年の時から、自分が将来就きたい職業、仕事と得られる能力のマッチングを意識しています。関西国際学園では、どんなキャリア教育をしているのですか。

中村:国際バカロレアはほとんどキャリア教育です。思想、考え方、倫理などを学んでいます。また、「テキストを使わない」ので、先生の能力が問われます。初等部でも探究学習を取り入れて

いますが、保護者との戦いです。「漢字ドリルは?」「英検、漢検は?」と…、「イヤなら辞めてください」と言えるので押し進められますが、一般の学校だと難しい。保護者の要望通りに動けば教科書に戻ることにになりますね。

山中:伝統的な教育を受けてきているから、マニュアルがないと不安なのですね。

茂木:そんななかでN高が評価されているのはすごい。子どもたちは別にして、保護者がよく納得しているなあと思います。何か分析をされていますか?

山中:保護者の満足度は8割強くらいありますし、N高がいいと入学する生徒が増えています。既存の学校に馴染めない子どももいますし、子どもの考え方を認める保護者が増えている気がします。今年の3月に初めて生徒を卒業させましたが、有名大学に入った生徒がたくさん出ました。

茂木:教育では、大学入試の結果が一般の保護者に伝わりやすいですね。

## 働き方やコミュニケーションが変化しているので、教育の中で対応できる力を付ける必要があります。

茂木:これからの日本の教育はどうなると思われますか?

山中:教育はこれまでずっと改革、改革でした。教育内容だけではなく評価をどうするか、入試をどうするか。世の中がすごいスピードで動いていて10年前と今の社会はぜんぜん違いますし、情報革命のまっただ中にいます。社会全体の働き方やコミュニケーションが大きく変わっているなら、教育の中でそれに対応した力を付けていく必要があります。教育も変わらざるを得ないと思います。

茂木:ICT教育に関してはいかがですか?

中村:幼稚園でもタブレットを使っていて、関西国際学園では1年生からは全員が持っています。中学生になると生徒の方が詳しいから、生徒が生徒を指導していますよ。

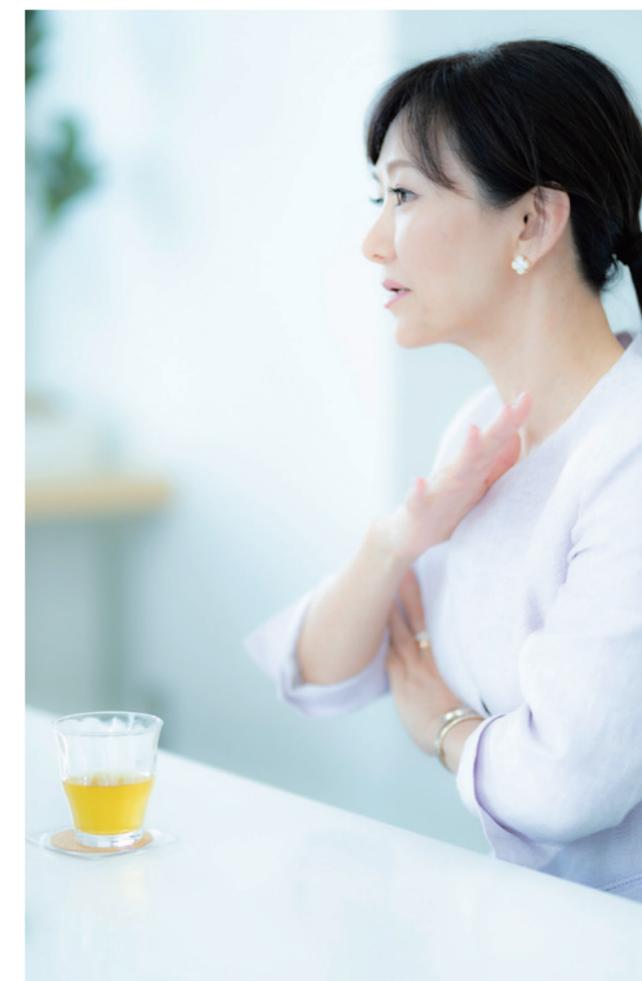
山中:一般の学校教育現場ではそこまで進んでなくて、保護者がどんなコンピュータリテラシーを持っているかで変わりますね。

茂木:N高は通信制だから、もともとネットリテラシーが高い生徒が多いのですか?

山中:いま、高校生はほぼスマホを持っていますよね。N高の教材はスマホを前提にデザインしていて、楽しみながら学べるようになっています。セキュリティの問題もありますが、学校を離ればみんなスマホを使いますし、社会ではスマホなしには生きられません。問題に気を付けながら、どんどん使っていかないとダメだと思います。

中村:N高ではコミュニティづくりはどうされていますか?

山中:ネット部活があります。一番部員が多いのが美術部で、プログラミング部、投資部などもあります。通学コースではProject Based Learningをやっていますが、これをネットでも始めようとしています。それでやり取りすればコミュニティづくりもできます。Face to Faceのコミュニケーションだけではなく、ネットを通じたコミュニケーション力も必要だと思いますね。



茂木: N高と関西国際学園では先端的な教育に触れられると思いますが、それを日本全体に広めていくにはどうすれば良いでしょうか？

山中: 例えばGoogleでは学習履歴データベース作成ツール、分析ツールなどを提供しています。それを使えばN高的なネットの学習追跡ができます。通常の授業でも使えますし、家庭学習を置き換えることもできます。そういうツールを使えば通学コースを補強できますよ。

中村: 残念ながら、関西国際学園に訪れる他校の先生方の学校でもWi-Fiはありません、データ通信も使いません。紙でやっていますというところが多いです。

山中: みんなスマホを持っていて通信料を払っています。先生も通信料を払ってスマホでやればいいし、自分でWi-Fi契約をすればいい。与えられたモノしか使わないということが問題ですね。

中村: 元文科省のトップだった方が、日本の教育は今ままではダメだと思っておられるのに、現場の先生方には伝わっていないのですね。関西国際学園は世界のトップスクールを参考にして世界最先端レベルの教育をしていると自負しています。どんな教育がいい悪いではなく、それぞれ違う教育環境のなかで、自分に合う教育を選ぶことが必要なのだと感じました。本日はありがとうございました。



特 集  
鼎 談

Vol.02

夏野 剛氏

×

茂木 健一郎氏

×

中村 久美子

# 今の時代に必要なのは、 同調圧力をなくし 個人の潜在能力を伸ばす教育

学びの環境に居づらい子どもをなくす、  
尖った子どもを尖ったまま育てる、  
個性を最大限に伸ばす、そんな使命を持って  
3年前に創設されたN高等学校が注目を集めています。  
関西国際学園 学園長 中村久美子のN高等学校理事就任を  
記念した企画第2弾としてN高等学校の理事 夏野剛氏を  
お招きし、関西国際学園顧問の茂木健一郎氏を交えて  
今の時代に必要な教育について語り合いました。

「夏野 剛 Takeshi Natsuno

実業家

1965年 神奈川県出身。

学校法人角川ドワンゴ学園理事、株式会社ドワンゴ代表取締役社長、  
株式会社KADOKAWA取締役、慶應義塾大学大学院政策・メディア  
研究科特別招聘教授

NTTドコモのiモード立ち上げメンバーとして活躍後、現在、複数の  
社外取締役も兼任するビジネスマン。

## N高が一般的な選択肢になる日こそ日本の教育が良くなる時。

夏野:学校教育が時代に合っていない感じがするのは同調圧力があるからです。同調圧力が教室の中の子どもの中に存在していて、逆らうようなことをする子がささいなきっかけで仲間外れにされてしまいます。小学校高学年から中学生くらいの年齢ならどの国にもありますが、日本は強い気がします。

茂木:教師が黙認している雰囲気もありますね。

中村:多くの親は子どもに目立つなと言いますよね。自分がそう生きてきたから。私はよく先生に逆らっていましたが、同級生だった子に「どうして怒られることをわざわざするのだろうと思っていた」と言われたことがあります。

夏野:仲間外れにするのは一人で、それは嫉妬心からですが、周りの同調する子はその方が無難だから。仲間外れにされている子に声をかけてあげると目立ちますし、順番に仲間外れが回ってくることもあるそうです。

茂木:子どもは大人の社会を見て、自分たちに当てはめるからでしょうか？

夏野:個性豊かな議員や女装する人、いじられキャラの芸人など、テレビを見ているとダイバーシティのように思えます。大人の社会や会社では昔のようなパワハラは減ってきているのではないですか？

茂木:生産性の高い会社、イノベーションのある会社はそうですが、まだまだなくなってはいない。帰国子女が「電車の中で携帯が鳴ったことがある人」「その電話に出たことがある人」「飲み会を断った

ことがある人」という質問に全部手を上げると、日本社会では低い評価になると嘆いていました。

夏野:そういう同調圧力を感じない環境にすることがN高等学校(以下N高)のミッションだと思っています。N高に来る生徒を見ていると、すごくいい子で全然問題がないのに同調圧力に耐えかねて入学してくる子が多いのです。人より真面目で勉強ができるとか、人と少し違うところはあるかもしれませんが…。

茂木:僕は学校視察に行くと必ずオタクの子と話します。「これ良いよね」と話しかけると「良いよね」と同調するのが普通の子どもです。ところがオタクの子は「アニメのこの作品良いよね」と言っても、「良いとは思わない、この声優が…」とか容易に同調しない。異常に細かくて頑固なのです。そういうオタク力を持っている子はN高にマッチングしていると思いますね。

夏野:いまN高の人気は高く、社会に受け入れられつつあるので経営者としてはうれしいですが…、本来の目的は、学びの環境に居づらい子を世の中からなくすこと。N高が普通の学校になったときに日本の教育が良くなると思います。

茂木:N高や関西国際学園が普通になるということですか？

夏野:ネガティブな理由でN高に来る子がなくなる世界を目指したいですね。当分の間は無理ですが、N高や関西国際学園の需要は大きいと思います。

## 公平性を考えるなら大学入試より国家資格を厳しくすればいい。

夏野:同調圧力をいかになくすかは、日本の社会改革の根幹になる気がします。

茂木:普通は平均からズレると引き戻す方向に行きますが、オタクの世界では尖っていないと評価されません。同調圧力の逆で、平均からズレないと評価されないのがオタクの世界、そこにカギがある気がします。

夏野:なぜ、日本の社会にズレや尖りが必要かというと、人口が減る中で生産性を上げるには尖るしかないからです。人口が増えていくなかでは平均点を上げていくことで国が富みましたが、人口が減っていくなかでは一人ひとりの才能を伸ばすことが必要で、平均点では意味がありません。

中村:でも、大学入試では平均的な子を合格させますよね。アニメが大好きなオタクの子がいて、それだけで入学できる大学があれば良いのですが…。

夏野:学力をどう定義するかが難しくなっていますね。

娘が習っていることを見て思うのは、小学校4年生頃までは計算、漢字などのトレーニング系です。6年生になると電卓の方が早いような計算を延々とやっています。わざとミスを誘うような問題もあって…、点数で成績をつける世界が始まります。夏休みの宿題に読書感想文がありますが、うちの娘の読書感想文は本が指定されていて、〇〇読書感想文コンクールに出すといったように、コンクールまで決められています。その課題を与えることが先生のミッションになっていて、ユニークさを問わなくてはいけないのに、みんな横並びはダメじゃないかと思いますね。

茂木:ダヴィンチは貧しい家の私生児でギリシャ語やラテン語などの古典教育を受けておらず、ずっとコンプレックスを持っていました。同じことを学ばなくてはいけないという同調圧力





のせいです。逆に言うとダヴィンチの才能は、余計なモノがなかったからこそ花開いたところがあります。

夏野: そうですね! 日本の教育機関はある必須の技術を教え込む世界になっていますが、本当は自分が向いている世界を築けるようにすることが必要なのです。ウィンブルドン・ジュニアで優勝した望月慎太郎くんはN高の1年生です。遠征が多いからと通信制のN高を選んでホテルで勉強しています。2年生にはフィギュアスケートの紀平梨花さんもいます。

茂木: その2人は、アメリカのハーバード大なら合格しますね。

夏野: でも、日本の大学入試は公平性を大事にしているペーパーテスト。コネや金の力で入ろうがいいじゃないですか。それで入学しても、バカだったら低い評価しかもらえないのだから!

茂木: 金持ちだけではなく、アメリカでは、風車で貧しい農家が電気を使えるようにした子がラジオ番組で注目されると、お金はないし、英語もできないのに、ダートマス大学がその子を探りに行きました。それに比べると日本はおかしい!

夏野: 公平性という割に医学系大学で女子の点数を下げるとか。男女の性差別はダメですが、高額な寄付をしている学生を入学させるのは、大学だからあってもいいと私は思っています。

中村: 金持ちの人から寄付金をもらい、貧しい家の優秀な子に使えばいいですよ。大学経営としてはバランスが取れています。

夏野: 入学しても「学力が足りなければ受からない」という風に資格を厳しくすればいい。学力が足りない学生を入れたら国家資格を取得できず、大学も評価されませんから!

## 高度成長期の教育を変えるのに、過去のシステムに最適化された先生が問題です。

夏野: 下の娘は算数が得意ですが社会には興味がなく、面白くないから覚えられないと言います。ところが、先生に「社会が苦手なので勉強させてください」と言われると、「はあ、すみません」となってしまって、本当はとことん算数を勉強させたいのに「社会を勉強しなさい」という自分がいて…、反省しています。

中村: 平均的にしようとする先生の圧力に親が負けてしまうのですね!

茂木: イギリスの歴史の教科書を見たことがあります。良くできていますよ。例えば、第一次世界大戦では23の資料があり、まずそれを読む。そして最後に「第一次世界大戦の原因はドイツの再軍備にある」という説がありますが、あなたは

どう思いますか」という質問で終わります。

夏野: すごい! オーストリアの皇太子が何年に暗殺されたかはどうでも良くて、その背景を自分がどういう風に分析したかが大事だということに分かっていますね。

茂木: しかも、正解はない! また、チューリッヒは一人当たりの所得が最も高い都市で人々の振る舞いも文化もすべてが洗練されています。ベストの教育を受けさせる社会的リソースがしっかりしていて学校もすごくいい。視察をして富はこういう風に使わないといけないと改めて思いました。その点、日本は戦後の経済成長で富を蓄積するチャンスがあったのに、蓄積できていないのが残念です。





夏野: 私はオリンピック委員をやっています。小学生の投票でオリンピックマスコットを決めるとするのは私の案でした。各クラス1票ずつにするので、クラスできちんと議論をして子どもたちにどの案が良いか決めさせてほしいとお願いしました。全国28万クラスある小学校のなかで、80%に当たる22万クラスが参加してくれました。その時に文部科学省が何をしたかという、マニュアルを作りました。「オリンピックはどういうもので、マスコットはどういう役割をして、この3案はどういう思いで創られているか」という資料を送ればいだろうと思っていたのに、それでは先生が授業をできないと。そこで、45分、90分、130分バージョンの3つのマニュアルができました。授業の展開が全部書いてあるので、僻地でも、レベルの低い先生でも全く同じように授業が進められます。この高度成長期につくった仕組みは素晴らしいですが、時代が変わっているのにそのままになっているのが教育の現状だと感じます。

茂木: そして、外れた子はそこからこぼれてしまう…。

夏野: 2割がこぼれても8割の平均点が良ければいいというのが高度成長期の教育でしたけれど、今はそれを180度変えないといけない。一番の問題は過去のシステムに最適化された先生ですね。

中村: 関西国際学園には22カ国以上の先生がいて自由にやらせてもらっていますが、探究学習一つ取っても、先生の力量を考えると全国の学校で実施するのは難しいだろうと思います。

夏野: 先生は連続10年間しか勤務できないようにすればいい。そうすれば、10年間だけ先生になろうと思う人も出てきます。僕は43歳の時に慶應の先生になりました。自分で学んできたことや社会で経験したことを何らかの形で伝えるのが使命だと思ったからです。アメリカの高校ではそういうことが当たり前ですよ。日本でも半分くらいの先生は社会経験のある人になると活性化すると思います。

中村: 私は企業にいて教育への刷り込みがなかったから、関西国際学園を創ることができたと思っています。

## 国がエリート教育をできないなら 民間がやるしかありません。

中村: 今の学校も会社も、個人の潜在能力を最大限に伸ばす方向にいてないですね。

夏野: 実社会はそちらへ向かっています。働き方改革とセットで兼業がOKになってきていますし、兼業では好きなことや会社ではできないことをやりますから。そんな社会に対応していないのは教育現場だけ、だから学び方改革が必要なのですね。

茂木: 例えば英語教育では、関西国際学園では表現に重点が置かれていて、発音や細かいスペルミスを全く気にしていません。本来、英語はそうあるべきだと思いますか。

夏野: 素晴らしいですね。EUではいま、会議をやるとネイティブスピーカーがほとんどいません。ネイティブイングリッシュではなくグローバルイングリッシュが重要な時代になってきています。参加者は、英語が下手ですが、それでも全員が主張しますよ。

茂木: ITではインドが優秀ですが、英語はめちゃくちゃです。でも、内容があれば英語力はなくてもみんなが話を聞きます。正しい英語を話せる意味がなくなってきているのですね。

中村: それなのに、未だに「現在完了形や過去完了形をきちんと教えてくれない」とクレームを言う保護者がおられます。「子どもに過去はありません」と答えています(笑)

夏野: 主張したいことがあればコミュニケーションに必要な言い回しは覚えます。それより、主張

したいことがある方が大事です。

茂木: 日本にも人材はいるはずですが、国家としてどう育成するかが課題ですね。

夏野: 尖った子どもはたくさんいます。その尖りを尖ったまま育てることが大事ではないでしょうか。





茂木:日本を振り返ると、明治政府にはエリート  
外国に留学させていたし、富国強兵という教育  
ポリシーがありました。今の日本政府に  
教育戦略がない!

夏野:それは、エリート教育が政治家の票獲得につな  
がらないからです。国ができないなら民間に  
任せてしまえばいい。私は全大学を私立に  
すべきだと思います。民間の最大の敵は国立  
です。義務教育は別にして、高校や大学を私立  
にすると自分たちの学校が生き残るために  
戦略性を出すと思いませんか?

茂木:そうですね。ところで、エリート教育というと  
賢い子のことばかり考えますが、個性を大事に  
することも必要ですね。学力は低くても個性の  
ある子を伸ばすと切り替える。そういう意味で  
Gifted教育と障がい児教育は似ています。

夏野:似ているのではなく同じだと思います。本来は  
普通の公教育がそういう仕組みであるべき

ですが、それができる高校がないからN高を  
つくったのです。

茂木:確かに、Gifted教育と障がい児教育が同じだと理解  
できたときに日本の教育は変わると思います。

中村:それを理解している関西国際学園とN高が  
組めば、面白いことができる気がします。

とことん突き抜けて!今、賢い子どもや尖った  
子どもはわずか数%、パーセンテージが低すぎ  
ます。今は私たちがエリート教育をやっていますが、ほんとうは国がやるべきですし、国が音頭を  
取れば誰も文句を言わないのではないのでしょうか。

夏野:文科省がやっているスーパーサイエンススクール  
もありますが、レベル的に全然スーパーでは  
なくて、日本には本物のエリートスクールが  
ないのが現状です。国ができないなら、今は  
民間が進めるしかない!

中村:N高も関西国際学園も頑張らなくてはいけな  
いですね。本日はありがとうございました。



## 2019年夏 関西国際学園 神戸校のグラウンドがグレードアップ!



全面人工芝になったうえ、3 on 3を楽しめるゴムチップ舗装のバスケットコートや陸上競技用50m直線タータンレーン。一輪車を楽しめるアスファルトエリア等、子どもたちが太陽のもと、目一杯体を動かし、裸足で芝生を踏みしめたり寝転んだり、時には輪になっておしゃべりに花を咲かせる笑顔あふれる時間が、子どもたちの「探究心」に刺激を与えています。



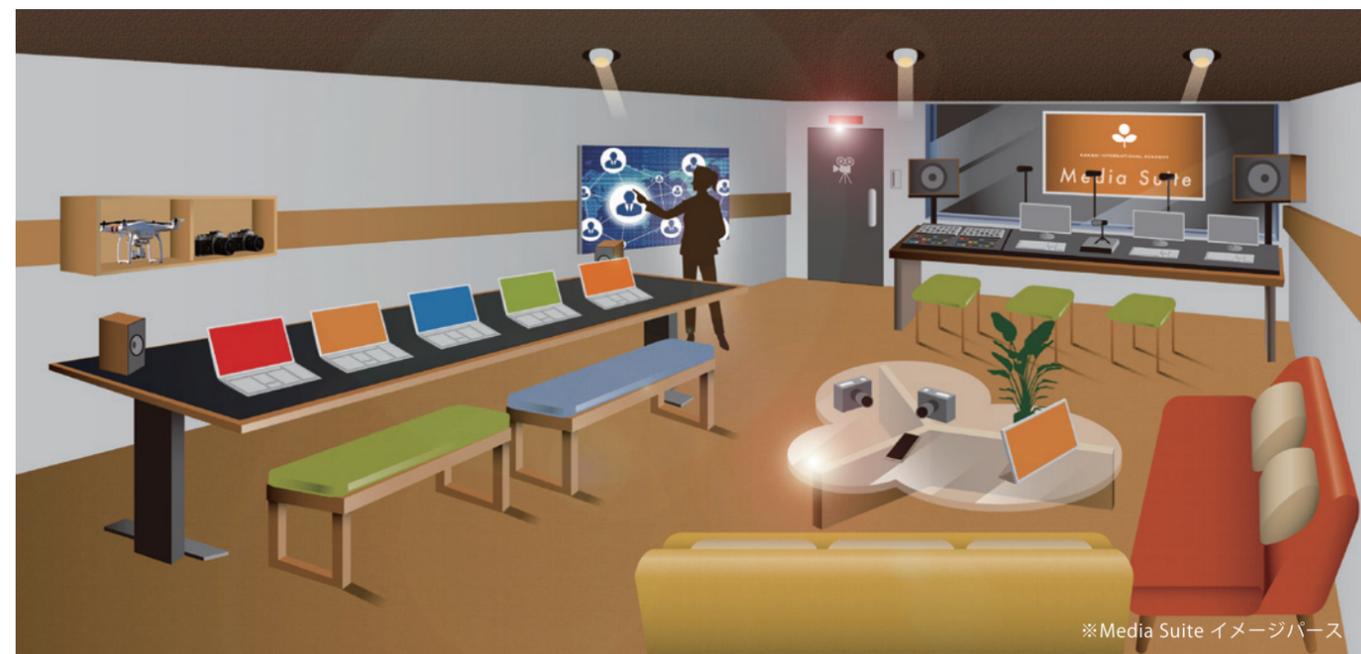
## 2020年度 関西国際学園の中高等部新校舎が増設!



※イメージパース

新校舎には他にはないブロードキャスティングや撮影、録音、編集作業を行うための専門的なブースを備え、生徒たちが多種多様なプロジェクトに取り組める「メディアスイート」を設置。またIB(国際バカロレア)DP(高等教育)では必須となる教科

ごとの専門図書の充実、そこで生徒たちがリラックスして読書をしたり課題に取り組める「コモンスペース」。また創造力を存分に発揮し個性を生かす「アートルーム」等、新たな施設を完備します。



※Media Suite イメージパース

# サポーターシップ制度のご案内

学校をサポートできる制度ができました！

## サポートの重要性

〈関西国際学園が目指す、これからの教育〉

国内外の有名大学への進学資格を取得

高等教育プログラム (DP)

国際バカロレア (IB)

国内外の大学の受験資格を取得

CIS

文部科学省が承認する『国際的な学校認定組織』

認定  
審査中

認定、継続のために必要な3大要素

### 1. 設備投資



サイエンス・ラボの備品等  
設備の充実



中等部・高等部用の  
ライブラリーの拡充



体育館・スポーツ施設  
等の建設・設置



著名人による講演会  
セミナー等の継続

### 2. 人材確保



優秀な教員の確保

### 3. 生徒たち



世界への進路ガイダンス  
質の高い国際教育  
世界へのネットワーク

Please **support us!**

私たちの夢を叶える  
サポーターになりませんか？



Supportership

KANSAI INTERNATIONAL ACADEMY

すべては子どもたちのために

## — 国際バカロレア (IB) DPとCIS認定と継続のために —

初等部は日英バイリンガルでの国際バカロレア (IB) PYP\*1認定校です。現在DP (Diploma Programme)\*2の候補校である高等部は2020年春の認定を目指しています。文部科学省が承認する『国際的な学校認定組織』(WASC、CIS、ACSI)\*3のいずれかの認定を受けることで、海外の主要大学だけでなく、国内の大学の受験資格があると認められます。

卒業時の選択肢を拡げるために、IBDPとCISの認定を目指し、当学園ではさまざまな角度から数年来体制を整えてまいりました。すでに両組織の審査チームの視察訪問を終え、審査段階に入っており、CISは2019年10月に認定の第一歩となるメンバーシップ校となりました。認定の審査項目は国際基準にのっとり、驚くほど多岐にわたります。具体的には、サイエンスの実験室をはじめとした物理的な教育施設や設備の充実をはじめ、質の高い教育を提供できる教員、子どもたちの学習修得状況などです。

ご承知のように当学園はいわゆる『学校法人』ではございません。当然ながら、国からの助成金や税金の免除などは一切ない為、設備投資の分野が当学園の第一の課題となります。また、両組織とも一度審査に通過したら終わりではなく、持続可能なガバナンスを審査されますので、設備面の投資に次ぐ第二の目的は優秀な教員の育成と確保だと考えています。



+



\*1 ▶ IB=International Baccalaureate/国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム PYP=Primary Years Programme/3~12歳を対象とした初等教育プログラム

\*2 ▶ DP=Diploma Programme/16~19歳を対象とした高等教育プログラム

\*3 ▶ CIS=Council of International Schools CIS=Council of International Schools ACSI=Association of Christian Schools International

サポーターシップに関する詳細につきましては各キャンパスで配付しているパンフレットを是非お手に取っていただき、ご検討ください。子どもたちに世界で通用する最高の学習環境を提供するために、皆さまのあたたかいご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。



カリキュラム・ラボ  
特別顧問

# 茂木健一郎氏による教員研修

2019 August

関西国際学園が目指す「進化を止まず」「突き抜けた最先端の教育」を、これからの未来を生きる子どもたちに与えるため、脳科学者 茂木健一郎氏が、関西の総勢200名の教員スタッフに向け「脳の仕組み」をテーマに講義をしてくださいました。「脳の働き」「脳の成長」そして「脳の記憶」について。人間が記憶するプロセスとは？そして、子どもたちがさまざまな知識を得るために、教師が考えるべきアプローチとは？



## Information

2020年4月  
同時開校

関西9校  
+  
関東6校  
に拡大



※イメージパース

### Nihonbashi Campus

さくらインターナショナルスクール  
日本橋校

〒103-0024  
東京都中央区日本橋小舟町13-1 1・2階

最寄り駅

- ▶東京メトロ銀座線 半蔵門線「三越前」駅 下車 徒歩9分
- ▶JR総武本線「新日本橋」駅 下車 徒歩6分
- ▶東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 下車 徒歩5分
- ▶東京メトロ日比谷線 都営浅草線「人形町」駅 下車 徒歩6分



### Setagaya Campus

さくらインターナショナルスクール  
世田谷校

〒158-0098  
東京都世田谷区上用賀5-5-10 2階

最寄り駅

- ▶東急田園都市線「用賀」駅 下車 徒歩10分

